

ウミガメ観察の注意点

絶滅危惧種を守るために

ウミガメは絶滅危惧種です。彼らを守るため、そして感動的な観察体験のために、以下の点を必ず守ってください。

最も大切なこと

ウミガメには絶対に触れないでください！



●ウミガメの上陸を待つ時

ウミガメが上陸するのを待つ間は、砂浜に腰を下ろして、静寂を保ちながらじっと待ちましょう。目が暗さに順応してくると、波打ち際から現れる影がぼんやりと見えてきます。その独特な動きから、きっとウミガメだと気づくはずです。移動が必要な時は、**安全のため**

に足元をライトで照らしてください。抜き足差し足でゆっくり歩き、時折座って様子を伺いながら、ビーチを静かに巡回することをおすすめします。

●ウミガメが上陸している時

ウミガメは産卵場所を探すため、砂浜をゆっくりと移動したり、砂を掘ったりします。この間は非常に警戒心が強く、人影や明かり、物音があると、警戒して産卵せずに海へ帰ってしまう可能性が高いです。

- **離れて静かに見守る**

- もしウミガメの姿を捉えたら、足を止め、その位置で静寂を保ちながら見守りましょう。これ以上距離を詰めないよう配慮することが肝心です。
- ウミガメは目が悪いため、もしあなたが動かずにいれば、ウミガメの方から近づいてくることもあります。

- **明かりを消す**

- ウミガメは光のある方向へ進む習性があります。街灯、懐中電灯、スマートフォンの光が見えると、海と間違えて光の方向へ進んでしまうことがあります。これはウミガメが海へ帰るのを妨げてしまいます。

- **産卵が始まるまで近づかない**

- ウミガメは気に入った産卵場所を見つけるまで、砂浜を動き回り、砂を掘る動作を繰り返します。
- **貴重な瞬間を見届けるための、最大の忍耐どころです。**ウミガメが場所を決定するまでに1時間以上かかることも珍しくありません。高まる期待を抑えつつ、周囲が静寂に包まれるまで辛抱強く待機しましょう。小さなお子様がいて長時間の静寂が難しい場合は、大人の方が1名見張り役として残り、産卵が始まったタイミングでライトを使って合図を送り、家族が合流するといった方法もスムーズでおすすめです。
- 砂を掘る音はかなり大きいので、音がなくなり、ウミガメの動きが止まっていることを確認してから、そっと近づきましょう。

●ウミガメが産卵している時

いよいよ産卵が始まったら、その貴重な瞬間を静かに見届けましょう。

- **光は顔に向けず、しっぽ側から静かに照らす**
 - ウミガメに触れることなく、感動的な産卵の瞬間を見守ってください。
- **赤色のライトを使用する**
 - ウミガメは赤い光を認識しにくいと言われています。観察には赤い光のライトを使用しましょう。

●ウミガメが海へ帰る時

無事に産卵を終えて砂をかぶせると、ウミガメは安堵したかのように再び広大な海へと戻っていきます。

- **赤色のライトで観察する**
 - 海への帰路を見守る際も、刺激の少ない赤色の光を使用してください。埋め戻し作業が完了し、海を目指して歩き始めたら、1メートルほど一定の距離を保ちながら後ろを歩いてみましょう。力強く砂浜を進むウミガメの姿を、最も間近で実感できる貴重な時間となります。

●仔ガメの「脱出」に遭遇した時

仔ガメが卵から孵化し、砂の下から地表に這い上がって海へ向かって歩き出すことを「脱出」と呼びます。この小さな旅立ちが、仔ガメにとって非常に重要な最初のステップです。

- **通常のライト（赤色ではないもの）**を使用し、仔ガメを海へ誘導する
 - 海を背にしてライトを照らし、ゆっくりと後ろ向きに海へ進んでください。
仔ガメは光を目指して追いかけてきます。
- 仔ガメにとって、自分の足で砂浜を歩いて一刻も早く海にたどり着くことがとても大切です。手で運ぶなどの**人間の手助けは不要です**。